

加古川良質米栽培ごよみ

平成23年産

普通栽培(10a当り)

土づくりの三本柱

- ① **秋すき**
稲わらは秋すきで土と混ぜておくで腐熟し、良質堆肥と同じ効果がある。石灰窒素(20kg/10a)施用で稲わらの腐熟促進、殺菌効果を併せもつ。
- ② **深耕**
作土層が浅くなっており、地力低下に拍車をかけています。できるだけ深耕に努めましょう。トラクターの速度を落とし、一番遅い回転でロータリー耕を行う。
- ③ **土壌改良資材の投入**
根に活力を与え、根くされを防止し、倒伏や病害虫に対して強い稲となる。

わら + 石灰窒素

効果
①養分の貯蔵庫を大きくする。
②下層に逃げた養分を土中に戻す。

食味向上のポイント

- ① **玄米のタンパク質含量、アミロース含量を抑える施肥管理を行いましょう**
※種肥は出穂20日前までに行う。それ以降の種肥、実肥は行わない。
- ② **苦土肥料を施用しましょう**
アルミニウム・苦土一番の施用を行うことにより、苦土が光合成に関与し、登熟歩合を向上させます。
- ③ **ケイ酸資材を施用しましょう**
ケイカル、硫酸さかい(ミネカル)または省力化の「とれ太郎」等のケイ酸は、窒素をコントロールし、稲の稈を強くします。

育苗のポイント

育苗用培土の使用量の目安(育苗箱1箱当り)

- 粒状培土2号 床土2kg 覆土1kg
- グリーンソイル 床土3kg 覆土1kg

浸種

種子量の4倍の水を使用。

注意事項

- ① 停滯水で行う。
- ② 最初の2日間は水交換をしないで下さい。
- ③ 2~3日に1回水の変更を行って下さい。
- ④ 水交換は静かに行ってください。

浸種日数目安
15℃の場合は6日間
20℃の場合は4日間

催芽

ハトムネ状態に
なるまで温種し、ハトムネ状態に

床土消毒

床土灌水後にダコレート水和剤400倍液を500ml/1箱に灌注。

播種

- 播種量は催芽もみ120~130g/箱
- 種子を均一に播種する。
- 覆土(もみが隠れる程度)

育苗(田植前30日)

育苗箱は床面に密着させる

遮光フィルムによるトンネル育苗
80%遮光フィルム…幅230mm(シルバーポリウ)
厚さ………0.05mm

灌水溝排水溝

被ふくフィルム支柱おもし

※灌水溝に多く水をためると発芽不良をおこす。特に育苗初期には水をためないで下さい。

育苗中期管理

- 播種後、遮光フィルムにより完全密閉したままの状態を管理する。
- 播種7~10日後、2.2葉期苗になれば遮光フィルムを取りはずす。
- 遅れると、徒長苗になるので、右図を参考に、よく観察し、適期に遮光フィルムの取りはずしを行う。

取りはずし適期苗

第一葉 第二葉

3cm以下 1.5cm 0.5cm

2.2葉期苗

品種	5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
生育のめやす		15日頃		12日頃					有効分けつ決定期		幼穂形成期		出穂期					10日頃	成熟期
水管理									中干し(7/17~24日頃)		間断灌水								
作業記録																			
作業	播種(5/15頃)			基肥・代かき 防除(6/12頃)	防除		追肥(7/3頃)	調整肥(7/10頃)	防除		穂肥(8/12頃)		防除		防除			落水(10/7~16頃)	刈取り
防除作業		田植当日		箱防除の徹底 コブノメイガ・ニカメイチュウ対策 嵐プリンズ箱粒剤10 50g/箱 または ツマグロヨコバイ対策 ブイゲットアドマイヤー粒剤 50g/箱	ジャンボタニシ対策 田植後~7日間 キタジンプ粒剤 5kg/10a または 田植後~収穫90日前 スクミン粒剤 4kg/10a		いもち病・紋枯病対策 オリブライト1キロ粒剤 1kg/10a	コブノメイガ・ウンカ対策 パダントレボン粒剤L 3kg/10a		カメムシ・ウンカ対策 スタークル粒剤 3kg/10a または スタークル豆つぶ 250g/10a		ウンカ対策 トレボン粒剤 3kg/10a (収穫21日前まで)							出穂後40日から50日を目標に



病害虫防除の省力化の為、箱処理剤は必ず施用しましょう。

箱処理剤の効果

主な適用病害虫	いもち病	紋枯病	イネミスゾウムシ	ウンカ類	ツマグロヨコバイ	コブノメイガ	ニカメイチュウ
箱処理剤	○	○	○	○	○	○	○
嵐プリンズ箱粒剤	○	○	○	○	○	○	○
ブイゲットアドマイヤー粒剤	○	○	○	○	○	○	○

- 〈より安全な栽培のために〉
- ① 風のない時を選んで作業しましょう。
 - ② 露のあるときの散布は避けましょう。
 - ③ 農薬散布のときは必ずマスクをしましょう。
 - ④ 住宅付近の農薬散布は十分注意してください。
 - ⑤ 稲作気象台情報を参考に防除を行ってください。

施肥基準(10a当り)

分施肥体系 (単位:kg)

肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	成分総量		
						N	P	K
アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
リンスター	(40)	(40)				(12.0)		
硫磷48号	30	20	10			4.8	4.8	4.8
苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
ニューかん太郎有機	35				35	4.2	2.1	4.2
成分計						9.0	6.9	9.0

省力体系

肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	成分総量		
アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
リンスター	(40)	(40)				(12.0)		
LPコート444E-80(140日タイプ)	60	60				8.4	8.4	8.4
苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
成分計						8.4	8.4	8.4

(注意事項)

- ※LPコート444E-80は代かき直後にむらなく、いねいに施用して下さい。
- ※出穂10日前頃に肥切れの稲は、硫磷48号を10kg程度施用して下さい。
- ※調整肥の苦土一番はケイ酸で茎を硬くし、苦土で食味向上に効果があります。
- ※肥料のやり過ぎは、病害虫の発生や食味の低下の原因となるので注意して下さい。
- ※()のリンスター、苦土一番を使用する場合は、ほ場の条件等により施用して下さい。
- ※ほ場の条件等により、施肥量は調整して下さい。

除草体系(10a当り)

※初期剤+中期剤の(2回散布)により確実な除草を行ってください。

初期	中期	後期
代かき時~代かき後(散佈後・田植まで4日以上空ける) サキドリEW500ml	粒剤 田植後12~14日 トップガンGT 1キロ51粒剤1kg	田植後25~40日 (ノビエ5葉期まで) クリンチャーバスME液剤 (100倍) (収穫50日前まで)
田植直後~田植後5日 ショキニーフロアブル500ml	フロアブル剤 田植後12~14日 トップガンL フロアブル500ml	田植後25~40日 (ノビエ4葉期まで) ヒエクリーン(バサグラン)粒剤 3kg (収穫60日前まで)
田植直後~田植後5日 ホタルイ多発の場合	播込剤 田植後12~14日 パットフルエースL ジャンボ250g	

水もちの良い田、雑草の少ない田では、初期剤を省略することができます。
(この場合は、中期剤を必ず田植後5~8日の間に投入して下さい。)

(注意事項)

- ※キシュウスズメノヒエ(ヨバイ草)、セリ等が多発している田では、耕起前にラウンドアップマックスロードで、事前処理をしてから、耕起作業を行って下さい。
- ※除草効果を高めるため、適期散布をして下さい。
- ※除草剤使用後、3~4日間は水深が3~5cmに保たれるように注意して下さい。
- ※投込剤(パットフルエース)を使用する際は、浮き草・藻類の発生があると拡散しないので注意して下さい。
- ※雑草が残った場合は、クリンチャーバスME液剤、または、ヒエクリーン(バサグラン)粒剤で処理して下さい。

